

付いてしまった心に力を加えても砕け散った氷がでるだけ。凍りついた心をとかすものは温もりだ。温もりが伝わることによって氷がとけ始める。そして笑顔が生まれる。お母さんが入院している園児の話をしてくださいました。

「自身の経験から」

①「つながること。傾聴・受容とともに」「促進（うながすこと）」から事態が展開した場合を紹介。

②「ミ箱」になること

宝石箱は宝石しか入らない。唾をはきかけられても接し続け、良い方向に向かった

というお話をされました。

③病室に入る時の心構え

「あなた逝く人、私残る人」ではなく、「あなた往く人、

私後から往く人。ともに浄土に歩む人」で入室。

④ライフレビュー

回想療法が効果的。人生をふり返ると自信を取り戻す。

⑤死後の話題にユーモアを

（１）お父さんそつちで頑張れよ。俺もこつちで頑張るから（安らかに眠るのとは違う人生観）。

（２）死亡のお知らせ

住所変更しました。新住所 西方極楽浄土。電話も設置の予定ですが、市外局番不明。

（１）キリスト教信者がもう

会えないのではと心配

：きつと近いと思うから。

僕が行くときは門の外に出て待つて、とお返事。

この他、法座でも、豊富な経験から、私たちが学ぶべき大事な人生観や姿勢について教えて下さいました。

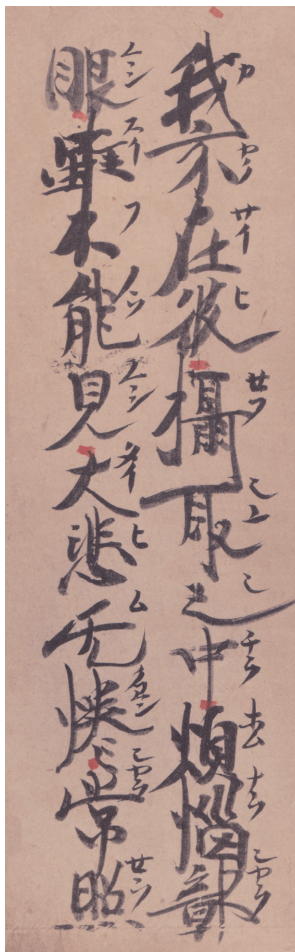
去る一〇月十六日、十八日、ご本山での法要に先立ち、西教寺でも親鸞聖人七五〇回会法要を勤修、たくさんの方が参詣され、五〇年に一度の勝縁を結ばれました。

三ヶ所で

記念法要は、長ノ木本坊蔵本通支坊 三津田支坊三ヶ所でそれぞれを行いました。おつとめは、本山制定の難しい「宗祖讃仰作法」をアレンジして、易しい西教寺バージョンを作成、いっしょに大きな声でおつとめしました。

ご講師は、信楽峻磨先生（元龍谷大学学長・安楽寺前任職）にお願いしました。テーマは、「親鸞聖人の根本

親鸞聖人七五〇回会法要 —原点から未来へ—



意趣とその未来を尋ねる。」

特にこのたびは、先生にご無理をお願いして、三ヶ所それぞれでお話をしていた



本堂に入れず縁側からお聴聞。手前は書籍販売の斎藤さん。

できました。主催者側も、

記念法要を三日間、三ヶ所で三回もするのはそれはそれは大変でした。特に三津田支坊は本堂土台が老朽化

し、たくさんの方の参詣者に耐えうるよう補強も必要でし

たが、かつてないほどたくさんの方がお参りしてくだ

さいました。また、中休み（休憩時間）に、信楽先生作

詞「み仏は」「お念仏」を歌おうと、門徒が発案・準備され 歌唱指導や、伴奏等、

お寺の枠を越えてお力添えを賜りました。大変でしたが、やってよかった、有難く嬉しい縁となりました。

また、形ばかりの法要と法話では親鸞さまに申し訳ないので、御示談を各会所とも行いました。ご法話を聞けば、基本的方向性につ

御示談も